

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.13

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

第2回全国水産系研究者フォーラムを開催しました

平成24年12月8日、岩手大学・東京海洋大学・北里大学は、東京海洋大学越中島キャンパス（東京都）にて第2回全国水産系研究者フォーラムを開催しました。

今回のフォーラムは、昨年1月に釜石市内で開催した第1回フォーラムに続いて、三陸水産業の復興支援のために岩手大学と連携して活動している東京海洋大学及び北里大学と合同で開催したもので、三陸地域の水産業復興を目指すという開催趣旨の下、全国の水産系研究者や行政関係者を中心に、約100名のご参加をいただきました。

当日は、最初に文部科学省大学振興課の池田貴城課長による講演が行われ、続いて水産業復興推進に関する連携協定を締結している岩手大学・東京海洋大学・北里大学のそれぞれの取り組みについての報告と、「三陸水産業復興の中核を担う人材育成」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、水産業に携わる人材育成の在り方や大学間の連携などについて、活発な討論が行われました。

パネルディスカッションのモデレータを務めた藤井克己岩手大学長は、「今後も、三陸の潜在力を活かす方策などについて意見交換を行いながら考えていきたい」と話し、討論を締めくくりました。



パネルディスカッションの様子

宮古商業高校にて、学生ボランティア活動に関する講演を行いました

平成24年12月21日、岩手県立宮古商業高校（宮古市磯鶏、菊地龍幸校長）にて、三陸復興推進機構ボランティア班長の名古屋恒彦教育学部教授と、学生ボランティア団体「天気輪の柱」所属の小野寺夏菜さんと篠田大樹さん（ともに農学部4年）が、岩手大学の学生ボランティア活動に関する講演を行いました。

この講演は、宮古商業高校が全校生徒を対象に実施している復興教育の一環として行われたもので、同校の体育館で行われた講演には、生徒及び教職員約400名が参加しました。

講演では、最初に名古屋教授から岩手大学の学生ボランティア活動の概要について紹介があり、続いて小野寺さんと篠田さんから、宮古市内を中心に活動を行っている「天気輪の柱」の紹介やそれぞれがボランティア活動に参加したきっかけなどについての話がありました。

また、質疑応答では、生徒から「ボランティア活動のやりがいを教えてください」「宮古市内で活動をしてどんな感想を持ちましたか?」といった質問が出され、講演を行った3名は丁寧に回答していました。

小野寺さんと篠田さんはそれぞれ生徒たちに「ボランティア活動を通じて、人と人の信頼関係がとても大切だと感じた。友人や先生などとの温かい関係を大事にしてほしい」「これまで地域のために活動してきた生徒さんも多いと思う。そこでの経験や得たものを大事にして、これからも頑張ってもらいたい」と語りかけていました。



講演の様子

岩手大学三陸復興プロジェクト

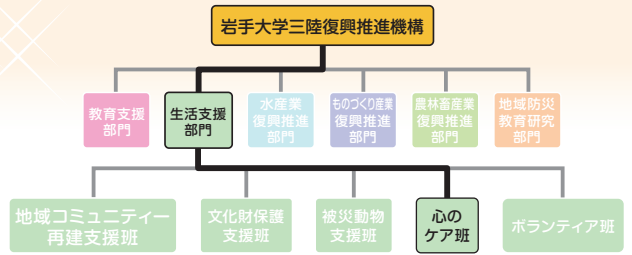
岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、沿岸被災地で、被災者の長期的な心のサポートプロジェクトを展開している「心のケア班」の取り組みをご紹介します。

沿岸被災者に“心のケア”を

岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門 心のケア班
佐々木 誠(三陸復興推進機構 特任准教授)

「心のケア班」は、人文社会科学部・教育学部・工学部・保健管理センターの教職員で構成され「被災者の長期的な心のサポートプロジェクト」を展開しています。活動の内容は、高校へのスクールカウンセラー派遣、体の微妙な変化を感知する装置(バイオフィードバック機器)を使ったリラクゼーション研修、他団体との協働による幼稚園支援などです。リラクゼーション研修は仮設団地や施設に出向き、住民のみならず職員の方々にストレスの仕組みや対処方法の講話をします。それに加えて、心拍をグラフで表す装置を使って、リラクゼーションするための効果的な呼吸法の練習もします。少しゲームのような要素のある、楽しみながらできる研修です。

平成24年3月からは釜石サテライト(平成23年10月に釜石市に設置)に臨床心理士の資格を持つ教員を配置し、現地での活動を展開しています。具体的には、教育委員会への協力としての小学校や中学校へのスクールカウンセラー派遣、支援団体や仮設団地等でのリラクゼーション研修、自治体・福祉関係・民間支援団体などが企画する連絡会や会議への参加です。それらの活動で得られたニーズと現状を大学に伝えることも大事な仕事ですし、全国規模の学会や研修会での復興支援に関わる活動報告もしています。他にも支援者支援の活動として、支援者団体が行っている自主学習会での講師や、支援の



検討会において意見を述べること(コンサルテーション)を行っています。これらの現地での活動は、大学での教育活動に反映され、臨床心理士を目指す大学院生の指導に生かされます。岩手県にはもともと臨床心理士など心の支援を専門とする人の数が少ないという課題がありました。とりわけ沿岸には足りませんので、1人でも多くの支援者を育てることが責務と感じています。

今後の活動としては、釜石市平田地区に建設中の岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライトが平成25年度に開設されますので、その1室を使ってカウンセリングなどの面接活動も行って行く予定です。悩みは、分かってくると信じてもらって初めて話せるものだと思います。地元での活動を地道に続けて、あそこなら安心して話せるという信頼を作りながら進めていきたいと考えておりますので、これからもご協力、ご支援よろしくお願いたします。



仮設団地でのリラクゼーション研修の様子

釜石サテライトだより

釜石道(高速道路)も遠野の手前まで延長され、釜石へのアクセスが良くなりました。沿岸は内陸に比べて暖かいこともあり、雪が降ってもすぐ溶けます。とはいえ、厳寒期には道も凍りまじし、雪も積もります。沿岸においての際には、十分にお気を付け下さい。

最近の釜石サテライトの活動状況について報告します。

●リラクゼーション研修を大学院生たちと一緒に行いました。

心のケア班では、活動の1つとして、リラクゼーション研修を行っています。仮設にお住まいの方、幼稚園の先生、支援団体の方々など対象に行ってきました。研修についてもフィードバック機器を使ったり、リラクゼーションの仕組みを説明したり、実際に呼吸法、筋弛緩法など一緒に行ったりと、対象に合わせた内容を組立てて行っています。今回は、大学で心理学を学ぶ院生も5人参加し、タッピング・タッチを実施しました。会場は、何度かおじゃましていた陸前高田市社会福祉協議会主催のお茶っこの会で、仮設住宅を含む住民の方34名を対象に行いました。院生は学外でのタッピング・タッチは初めてだったので、前日に練習会を行っていました。



気仙コミュニティでのリラクゼーション研修の様子

●タッピング・タッチ

肩に手を置き、その後1秒に1回程度のペースで左右交互に刺激を与えます。場所を変えつつ、腰から頭までゆっくり行きます。最後に肩をさすってねぎらいます。テレビでも、不眠に効くエクササイズということで紹介されていました。



タッピング・タッチを実施している様子

●研修の様子

到着した瞬間から、若者が来たぞ!ということで会場のみなさんは喜んで、院生にいろいろと話しかけていました。いつも(教員1名のみ)の時とはまるで違います…。会が始まり、教員主導のリラクゼーションの後、院生のタッピング・タッチを行いました。みなさん気持ちよさそうに院生のタッピングを受けていました。気持ちがほぐれて話も盛り上がり、満足して、すこし名残惜しそうに帰路についていらっしやいました。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

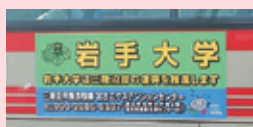
●連絡先 釜石サテライト

〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町15-2 釜石市教育センター5階
TEL:0193-22-4420/0193-22-4426
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp
URL:http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/

Information

岩手大学の 広告をつけた バスが走る!

- 運行期間 平成24年11月～
- 運行会社
久慈市: J Rバス東北 久慈営業所
宮古市: 岩手県北バス 宮古営業所
釜石市: 岩手県交通 釜石営業所



宮古市で走る岩手大学の広告をつけたバス(岩手県北バス)
画像提供:株式会社 近宣 盛岡支店

編集後記

例年と比べ、全国的に非常に寒く、雪も多く積もる冬となっています。このような厳しい冬が嘘であったかのように穏やかな天候のもと、1月19日と20日、岩手大学では大学入試センター試験が実施されました。高校1年生の時に震災を経験した岩手県内の多くの高校生が試験に臨みました。

「岩手の復興を担う人材になってほしい。」そのようなことを期待しながら、試験の運営を行いました。